

2025年度 第8回 公立大学法人埼玉県立大学教育研究審議会 議事録

1 開催日

2026年2月2日(月)

2 開催方法

WEB 会議

3 参加者

林議長、犬飼委員、金村委員、田中委員、横山委員、濱口委員、善生委員、竹島委員、國澤委員、白倉委員、小澤委員、植野委員、野中委員

オブザーバー参加:常盤学長補佐、北畠情報センター長、上原地域連携センター長、滑川保健センター長

代理出席:山崎教授(理学療法学科長代理)

4 事務局

長岡副局長、新井調整幹兼総務担当部長、出井財務担当部長、甲田施設管理担当部長、根本教務・入試担当部長、富田学生・就職支援担当部長、中野研究・地域連携担当部長、篠原企画・情報担当部長

5 議事概要

【審議事項】

(1)令和8事業年度 業務運営に関する計画(案)について

資料に基づき、長岡 副局長から説明された。

(2)カリキュラム改訂について

資料に基づき、金村 高等教育開発センター長から説明された。

○科目名について、特に初年次科目で分かりにくいものが多い。カタカナ英語で無理やり作っているように感じるものがあるので、日本語表記を加えるなど学生に伝わる工夫をご検討いただきたい。

⇒名は体を表すような科目名となるよう、学科専攻等の先生方に再度確認をさせていただき、進めていく。

(3)教育目標及び3ポリシーの改正について

資料に基づき、金村 高等教育開発センター長から説明された。

○ディプロマ・ポリシーが、これから肝になっていき、アウトカムの可視化も求められると思う。大学の質保証の観点からも重要なことなので、先生方には引き続きご協力をお願いしたい。

(4)学則の改正について

資料に基づき、金村 高等教育開発センター長から説明された。

【報告事項】

(1)2025年度埼玉県立大学学生調査(卒業生・修了生)について

資料に基づき、篠原 企画・情報担当部長から説明された。

○大学院への入学を考えていない理由としてもっと多い回答が「必要性がない」となっている
経済的な理由や仕事の関係というのは仕方のないことだが、必要性については学部在学中
に大学院の魅力伝えきれてないのではないかと。

⇒理学療法学科では、ゼミ活動などで教員の研究内容に触れる機会がある。また、理学療法研究法という科目の中で、教員の研究内容を紹介することがある。そのようなきっかけから、大学院進学を考える学生もいるかもしれない。

⇒この他にも、理学療法学科では3・4年生の臨床実習を通して、大学院での研究の活かし方をイメージしやすい環境にあると思う。諸先輩方が一生懸命に研究発表している姿が近くにあるというのが、大学院進学を前向きに捉える機会になっていると思う。

⇒看護学科では、臨床の中で自分が分かりたい事象を見つけてから、大学院進学を考えると文化があるように思う。また、少し自分の周りが見えてきて、文献を読んだけど分からない、自分なりに研究してケアをしていきたいという思いが出てくると大学院進学を考えるようになるので、学部卒業後すぐに大学院進学を考えるとはなりにくいように思う。

⇒保健師も、分析をすることや、政策提言をしなくてはならないというような必然性に駆られて、10年目くらいで大学院進学を考える人もいるのかと思う。

⇒学部大学院一貫コースも始まっており、どの学科でも大学院の魅力伝えるような種まきが必要になると思う。良いアイデアがあれば、引き続き情報共有をお願いしたい。